（別紙様式4）

令和8年11月1日

# 職業実践専門課程等の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 |
|---|---|---|---|
| 麻生情報ビジネス専門学校 | 昭和60年12月24日 | 石川　一仁 | 〒　812-0016<br>（住所）　福岡市博多区博多駅南2-12-32<br>（電話）　092-415-2291 |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 |
| 学校法人麻生塾 | 昭和26年3月12日 | 理事長　麻生　健 | 〒　820-0018<br>（住所）　福岡県飯塚市芳雄町3-83<br>（電話）　0948-25-5999 |

| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士認定年度 | 高度専門士認定年度 | 職業実践専門課程認定年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 工業 | 工業専門課程 | 情報工学科<br>AIエンジニア専攻（アドバンスコース）<br>令和8年4月1日「情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース」より学科名変更 | 平成21(2009)年度 | － | 平成25(2013)年度 |

| | |
|---|---|
| 学科又は専攻科の目的 | IoT環境の構成要素を理解し、AIシステムの実装方法を修得する。画像や音声、言語の認識技術を活用するとともに、機器の制御ソフトウェアを開発できるエンジニアを育成する。 |
| 学科又は専攻科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格等） | 基本情報技術者試験 |

| 修業年限 | 昼夜の別 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3　年 | 昼間 | 93　単位 | 39 単位 | 118 単位 | 8 単位 | 0 単位 | 0 単位 |

| 学生総定員 | 学生実員(A) | 留学生数（学生実員の内数）(B) | 留学生割合(B/A) | 中退率 |
|---|---|---|---|---|
| 240 人の内数 | 3 人 | 0 人 | 0% | 0 % |

**就職等の状況**

| | | |
|---|---|---|
| ■卒業者数 (C) | 2 | 人 |
| ■就職希望者数 (D) | 2 | 人 |
| ■就職者数 (E) | 2 | 人 |
| ■地元就職者数 (F) | 1 | 人 |
| ■就職率 **(E/D)** | 100 | % |
| ■就職者に占める地元就職者の割合 **(F/E)** | 50 | % |
| ■卒業者に占める就職者の割合 **(E/C)** | 100 | % |
| ■進学者数 | 0 | 人 |

■その他

・履歴書の書き方及び面接練習（オンライン・対面）を実施

（令和　7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

情報サービス

**当該学科のホームページURL**

https://asojuku.ac.jp/abcc/ai_iot/ai_engineer/

**企業等と連携した実習等の実施状況**

（B：単位数による算定）

| | | |
|---|---|---|
| 総単位数 | | 93 単位 |
| | うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 | 3 単位 |
| | うち企業等と連携した演習の単位数 | 0 単位 |
| | うち必修単位数 | 3 単位 |
| | うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 | 3 単位 |
| | うち企業等と連携した必修の演習の単位数 | 0 単位 |
| | （うち企業等と連携したインターンシップの単位数） | 0 単位 |

**教員の属性（専任教員について記入）**

| | | |
|---|---|---|
| ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 | （専修学校設置基準第41条第1項第1号） | 3 人 |
| ② 学士の学位を有する者等 | （専修学校設置基準第41条第1項第2号） | 8 人 |
| ③ 高等学校教諭等経験者 | （専修学校設置基準第41条第1項第3号） | 0 人 |
| ④ 修士の学位又は専門職学位 | （専修学校設置基準第41条第1項第4号） | 1 人 |
| ⑤ その他 | （専修学校設置基準第41条第1項第5号） | 0 人 |
| 計 | | 12 人 |

| | |
|---|---|
| 上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数 | 10 人 |

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

| | |
|---|---|
| a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。 | している |
| 開催日時実績 | 第1回　令和7年7月17日　15:30～16:30／第2回　令和7年12月11日　15:30～16:30 |
| b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。<br>※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。<br>※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。 | している |
| ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、<br>地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。） | |
| ②学会や学術機関等の有識者 | |
| ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員 | |
| c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。 | している |
| d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。 | している |
| e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。 | している |
| f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。 | している |
| g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。 | している |

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

| 名　前 | 所　　属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 馬場　伸一 | NPO法人 QUEST　理事長 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ① |
| 芦原　秀一 | NPO法人 QUEST　会長 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ① |
| 小川　直樹 | 株式会社アソウ・アルファ　常務取締役 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ③ |
| 吉村　栄治 | 株式会社九州DTS　経営企画部 事業推進室　室長 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ③ |
| 岡部　浩太郎 | SCSK九州株式会社 ビジネスシステム部営業課 担当課長 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ③ |
| 福田　将宏 | 株式会社ミックウェア オペレーション 執行役員 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ③ |
| 村井　慶史 | 株式会社オプティム 社長室　知的財産ユニット　ゼネラルマネージャー | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ③ |
| 山下　文夫 | 麻生情報ビジネス専門学校　副主任 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ー |
| 野馬　克則 | 麻生情報ビジネス専門学校 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ー |
| 坂下　暁 | 麻生情報ビジネス専門学校 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年） | ー |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

| | |
|---|---|
| a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。 | している |
| b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。 | している |
| c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。 | している |
| d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。 | している |
| e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。 | している |
| f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。 | している |
| g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。 | している |
| h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。 | している |

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科　目　名 | 企業連携の方法 | 科　目　概　要 | 連　携　企　業　等 |
|---|---|---|---|
| システム開発実習Ⅰ | 2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 | グループでテーマの設定およびシステム企画を行い、設計書を作成する。設計書に基づいてシステム開発を行い、成果をプレゼンテーションする。中間レビューや成果発表などで企業の評価をもらうことで実践力を育成する。 | NPO法人 QUEST |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　AI・データサイエンス専門Ⅰ　　連携企業等：gacco

期間：　令和7年2月16日（月）　　対象：情報工学科担当

内容　AI導入実装のプロジェクトを進める上で基礎技術を学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　教育とハラスメントの境界線～アカハラとカスハラを学ぶ　　連携企業等：吉田総合法律事務所

期間：　令和7年8月20日（水）　　対象：情報工学科担当

内容　アカデミックハラスメントの定義や具体的な事例を通して、指導時に注意すべきポイントを学ぶ。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　AWS Academy 講師向けワークショップ　　連携企業等：AWS Academy

期間：　令和8年8月19日（水）～21（金）　　対象：情報工学科担当

内容　AWS Academy 講師向けワークショップ。基礎から最新知識までハンズオン形式で学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　多様な特性を持つ学生への理解　　連携企業等：有吉祐睡眠クリニック

期間：　令和8年9月4日（金）　　対象：情報工学科担当

内容　多様な特性を持つ学生への理解を深めるため、発達障害の基礎知識や特徴、二次障害として生じやすい精神的疾患を学ぶ。

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | |
|---|---|
| (1)教育理念・目的・目標 | |
| 1 教育理念、目的及び目標の設定等 | |
| ①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| (2)学校運営 | |
| 1 教育課程の編成と授業科目 | |
| ①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 2 教育の実施 | |
| ①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 3 単位・卒業認定 | |
| ①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 4 学修成果目標の達成状況 | |
| ①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| (3)学生の受入れ、学生支援 | |
| 1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 | |
| ①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 2 自主的な学習の促進に対する支援 | |
| ①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けていない |
| 3 多様な学生に対する支援 | |
| ①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 4 学生生活に関する支援 | |
| ①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 | 同内容評価項目を設けている |

| | |
|---|---|
| (4)教育実施組織・教員 | |
| 1 教員の配置、募集、採用 | |
| ①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けていない |
| 2 教員の組織編制等 | |
| ①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 3 教員の資質の向上 | |
| ①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| (5)教育環境 | |
| 1 教育環境の整備 | |
| ①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けていない |
| ③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 2 安全対策、防災組織 | |
| ①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 3 施設・設備等の点検、改善等 | |
| ①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。<br>※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| (6)教育活動の基盤と改善・向上の取組 | |
| 1 中期事業計画と財務基盤 | |
| ①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けていない |
| ②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 2 学校運営 | |
| ①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。 | 同内容評価項目を設けている |
| 3 学校評価の実施と改善活動 | |
| ①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 4 社会からの理解と情報の公表 | |
| ①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けていない |

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

| 名　前 | 所　　属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 東　美也 | 情報工学科 高度ITシステム専攻　保護者 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年) | 保護者等 |
| 中園　晴久 | 株式会社藤本ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 平成6年度情報経理科<br>卒業生 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | 卒業生 |
| 浦川　美代子 | 自治会長 博多駅南1丁目1区　自治会長 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | 地域住民 |
| 笹野　明裕 | 福岡県立宇美商業高等学校<br>学校長 | 令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年) | 高等学校関係者 |
| 中村　隆典 | 一般社団法人福岡県情報サービス産業協会<br>企画調査委員会委員長 | 令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 前田　真 | 福岡地域戦略推進協議会 事務局次長 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 馬場　伸一 | NPO法人　QUEST　理事長 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 小林　憲一 | 小林憲一税理士事務所 所長 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 谷口　浩司 | リコージャパン株式会社 デジタルサービス営業本部<br>福岡支社文教自治体営業部　文教グループリーダー | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | 企業等委員 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

| 情報提供方法 | ホームページ | 「その他」の場合 | |
|---|---|---|---|
| 公表URL | https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2026/hyoka.pdf | | |
| 公表時期 | 令和8年10月1日 | | |

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

| 情報提供方法 | ホームページ | 「その他」の場合 | |
|---|---|---|---|
| 公表URL | https://asojuku.ac.jp/abcc/ | | |
| 公表時期 | 令和8年7月31日 | | |

# 授業科目等の概要

| | （工業専門課程情報工学科ＡＩエンジニア専攻アドバンスコース）令和8年度 | | | | | | | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 単位数 | | | | | | | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 1 | | ○ | | 機械学習Ａ | 機械学習の種類や学習モデルから計算結果を得るため基本手法について学ぶ | 1前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 2 | | ○ | | 統計学 | データ分析を行うための確率論と統計学の基礎を学ぶ | 1前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 3 | | ○ | | ＡＩプログラミング演習 | ＡＩシステム開発の標準言語であるＰｙｔｈｏｎ言語のプログラミング方法を学ぶ | 1前 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 4 | | ○ | | ＡＩサービス演習Ａ | クラウドの環境を利用してシステム動作環境の構築方法を学ぶ | 1前 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 5 | | ○ | | データベース基礎演習 | 基本的なデータベースシステムの仕組みを理解し、ＳＱＬを使用したアクセス方法を学ぶ | 1前 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 6 | | ○ | | Ｗｅｂアプリケーション演習Ａ | ＰＨＰを利用したＷｅｂシステム構築に必要な開発技術を学ぶ | 1前 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 7 | | ○ | | ビジネスコミュニケーション | ビジネスコミュニケーションの基礎スキル（チームワーク・聴く・読む・伝える）、論理的スキル（論理思考、説得交渉、問題解決手法）を学ぶ | 1前 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 8 | | ○ | | ゼミナールⅡＡ | 学校生活における各種活動の準備と振り返りを行う。また、基礎学力の向上を図り社会情勢や時事問題について知識を広げ、自身のキャリア設計を行う | 1前 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 9 | | ○ | | ＧＣＢⅡ | 国際人として、「夢」と「ビジョン」と「志」を持ち、仕事に対する高い意識を持った、世界に貢献できる人材を目指す | 1前 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 10 | | ○ | | 生成ＡＩ入門 | 生成ＡＩについての入門的な理解を深め、社会での活用方法や注意点を学ぶ | 1前 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 11 | | ○ | | 情報セキュリティ | 情報セキュリティの脅威やリスク、対策方法の基礎を学ぶ | 1前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 12 | | ○ | | 情報処理試験春対策 | 各区分の情報処理試験対策を行う | 1前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |

| | （工業専門課程情報工学科ＡＩエンジニア専攻アドバンスコース）令和8年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 13 | | ○ | | 一般教養ⅡＡ | 国語、数学および英語の応用力アップを図り、適性試験対策を行う | 1前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 14 | | ○ | | 機械学習Ｂ | 機械学習ライブラリを使用して学習データから学習モデルを作成する方法を学ぶ | 1後 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 15 | | ○ | | ディープラーニング演習 | ディープラーニングの概念やアルゴリズムの知識を学び、ライブラリを使った処理を実装を通じて学ぶ | 1後 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 16 | | ○ | | Ｗｅｂアプリケーション演習Ｂ | データベースを連携させた実践的なＷｅｂプログラム開発を個人で行う | 1後 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 17 | ○ | | | システム開発実習Ⅰ | システム構築のための要件定義、概要設計、詳細設計等、設計工程の実践的な実習により一連の設計手法を学ぶ | 1後 | 3 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 18 | | ○ | | ＡＩサービス演習Ｂ | クラウドのＡＩ環境を利用して学習済モデルを使ったＡＩシステムの利用を学ぶ | 1後 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 19 | | ○ | | ゼミナールⅡＢ | 学校生活における各種活動の準備と振り返りを行う。また、基礎学力の向上を図り社会情勢や時事問題について知識を広げ、自身のキャリア設計を行う | 1後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 20 | | ○ | | クラウド基礎 | セキュアなクラウド環境の実装と運用、管理に必要なスキルと知識を学ぶ | 1後 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 21 | | ○ | | 情報処理試験秋対策 | 各区分の情報処理試験対策を行う | 1後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 22 | | ○ | | ＡＩプログラミング基本演習 | Ｐｙｔｈｏｎ言語の基本文法を学び、基礎的なプログラムの作成方法を学ぶ | 1後 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 23 | | ○ | | 一般教養ⅡＢ | 国語、数学および英語の応用力アップを図り、適性試験対策を行う | 1後 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 24 | | ○ | | ＩｏＴ概論 | ＩｏＴシステムを構築するために必要となる各種センサーや通信機器の基本知識を学ぶ | 2前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 25 | | ○ | | 電子回路 | 電子システムの開発者に必要な電子回路（電圧、電流、抵抗、ダイオード、コンデンサなど）の基本技術を習得する | 2前 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |

| | （工業専門課程情報工学科ＡＩエンジニア専攻アドバンスコース）令和8年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 26 | | ○ | | 音声認識演習 | 音声認識システムの仕組みについて学び、音声認識処理の実装を通じて理解を深める | 2前 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 27 | | ○ | | 画像認識演習Ａ | 画像認識の技術項目を取り上げ、仕組みの理解を深める | 2前 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 28 | | ○ | | 制御プログラミング演習Ａ | Ｃ言語の文法の理解と主な関数の使用方法を実装を通じて学習する | 2前 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 29 | | ○ | | キャリアデザインⅡＡ | 学校生活における各種活動の準備と振り返りを行い、また、基礎学力の向上を図り社会情勢や時事問題について知識を広げ、自身のキャリア設計を行う | 2前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 30 | | ○ | | Ｗｅｂプログラミング演習ＩＡ | ＰＨＰを利用したＷｅｂシステム構築に必要な開発技術を学ぶ | 2前 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 31 | | ○ | | 情報処理試験春対策 | 各区分の情報処理試験対策を行う | 2前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 32 | | ○ | | ロボット制御演習 | 指定された競技コースを走行する自律型ロボットのプログラミングを通して組込みシステム開発技術を高める | 2前 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 33 | ○ | | | ＡＩモデル開発演習 | フレームワークによるモデル開発や、クラウドＡＩサービスと連携したＡＩアプリケーションの開発方法を学ぶ | 2後 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 34 | | ○ | | 画像認識演習Ｂ | 自然画像および動画を対象に、実装を通して技術的な理解を深める | 2後 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 35 | | ○ | | 自然言語処理 | 自然言語処理の基本知識や文の解析、対話システムの開発方法を学ぶ | 2後 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 36 | | ○ | | 制御プログラミング演習Ｂ | マイコンボードによるＬＥＤ、ＬＣＤ、ＡＤコンバーター、タイマ機能などの制御プログラムを学ぶ | 2後 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 37 | | ○ | | キャリアデザインⅡＢ | 企業研究、履歴書作成、面接の方法について学び就職試験に向けての準備を行う | 2後 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 38 | | ○ | | Ｗｅｂプログラミング演習ＩＢ | データベースを連携させた実践的なＷｅｂプログラム開発を個人で行う | 2後 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |

| | （工業専門課程情報工学科ＡＩエンジニア専攻アドバンスコース）令和8年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 39 | | ○ | | 情報処理試験秋対策 | 各区分の情報処理試験対策を行う | 2後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 40 | | ○ | | エッジコンピューター演習 | 身近な小型コンピューターを使い、現実世界のデータの情報収集の手法を学ぶ | 2後 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 41 | | ○ | | ＡＩ＆ＩｏＴ演習Ａ | テーマに沿ったＡＩシステムの開発を通してセンサーから入力した情報を学習データとするＡＩ・ＩｏＴのシステムの開発技術を学ぶ | 3前 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 42 | | ○ | | 卒業制作Ａ | テーマを決めて調査、企画を行い、チームによる設計、開発、構築を通して実践力を高める | 3前 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 43 | | ○ | | シングルボードコンピューター演習 | シングルボードコンピューターと各センサーや電子部品を組み合わせて制御プログラムの実装技術を学ぶ | 3前 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 44 | | ○ | | Ｗｅｂシステム演習 | ＰＨＰを利用したＷｅｂシステム構築に必要な開発技術を学び、データベースを連携させた実践的なＷｅｂプログラム開発を個人で行う | 3前 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 45 | | ○ | | 情報処理試験春対策 | 各区分の情報処理試験対策を行う | 3前 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 46 | | ○ | | リアルタイムＯＳ演習 | リアルタイムＯＳであるＩＴＲＯＮ（トロン）の仕組みや仕様を理解し、プログラムの実装を行う | 3前 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 47 | | ○ | | ＡＩ＆ＩｏＴ演習Ｂ | テーマに沿ったＡＩシステムの開発を通してセンサーから入力した情報を学習データとするＡＩ・ＩｏＴのシステムの開発技術を学ぶ | 3後 | 10 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 48 | ○ | | | 卒業制作Ｂ | テーマを決めて調査、企画を行い、チームによる設計、開発、構築を通して実践力を高める | 3後 | 3 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 49 | | ○ | | ドローン制御演習 | ドローンの飛行、指定位置への着陸を制御するプログラミングを行う | 3後 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 50 | | ○ | | 情報処理試験秋対策 | 各区分の情報処理試験対策を行う | 3後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 51 | | ○ | | モデルベース開発演習 | 制御系システムのソフトウェア開発に使用されるモデルベース型開発手法を実践的に学ぶ | 3後 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |

| | （工業専門課程情報工学科ＡＩエンジニア専攻アドバンスコース）令和8年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 52 | | ○ | | 強化学習演習 | 強化学習のアルゴリズムを実装したプログラムの開発方法を学ぶ | 3後 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 53 | | ○ | | ビジネスマナー | ビジネスマナーの基本および、オフィスでの状況対応能力を身に付ける | 3後 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | | 53 科目 | | | 165 単位 | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|---|---|---|
| 卒業要件： | ・学則に定める修業年限以上在学していること<br>・必修科目と選択科目から学科毎に定められた単位数を修得していること | 1学年の学期区分 | 2 期 |
| 履修方法： | ・学科ごとに指定された講義科目群と演習科目群の中から必要な授業科目を履修する<br>・授業科目は、定められた年次にそれぞれ履修しなければならない場合がある<br>・必修科目の単位は必ず修得しなければならない<br>・指定された履修年次に単位を修得できなかった必須科目は、原則として、次の学期または学年に再履修しなければならない | 1学期の授業期間 | 15 週 |